

20th
Sophia Drama Festival
1979

あいさつ

J・ピタウ学長

第二〇回上智大学語劇祭開催を心からお祝い申し上げます。上智大学語劇祭は、数多い課外活動の中でも大変に興味深いものであります。上智大学は創立当初より外国語教育に力をそそぎ、ことに今日の如く国際社会における外国語の必要に応じるためには、学生が外国語をいかに習得するか。その意味で語劇は語学習得の多様な要素をもっているといえます。又、現代のように技術の驚異は私達を世界のすみずみあるいはまた大都会の中心に導き、実際そこで起っていることを見せてくれます。しかし、人々は、何かコミュニケーションの不足を感じます。活字、ラジオ、テレビなどは第二義的なコミュニケーションの手段であり、これらのものは、視聴者を受身の立場におき、自ら直接経験し、自分の目で見るという感動を与えてくれないのです。劇は人間に、共通する経験という次元を与えてくれる芸術の一分野であり、いかなるマスメディアもこれに匹敵し得ません。観客の側からすれば、ラジオや映画などの限られた次元では殆んど不可能な直接性や登場人物との調和があります。役者にとっても、ただ照明とカメラに向かうのと違い、直接

観客を感動や情を分かち合えることができる機会なのです。

英語、仏語、独語など各国語の修得は勿論のこと、国語を通して各国の理解を深めることが大切で、今日のこの上演を皆さんと共に観賞出来ることは大きなたのしみです。

あいさつ

若林吉彦学生部長

上智大学の伝統行事の一つとなっている語劇祭が此の度第二十回記念公演を行なうことは関係者の一人としてこの上ない喜びです。

一口に二十回といっても、大学における一世代は四年ですから五世代分に当ることになります。伝統は亡び行くもの風潮のある昨今にあって、上智大学の外国語劇が今日までそのよき伝統を保ちえていることは称賛に値することといえます。先輩から引き継ぐものがあり、さらにそれを後輩に引き継ぐに値するものとする、そこに私は生命力の躍動ならびに伝統のよさというものを感じます。

私自身語劇祭の初期の時代に何回か舞台に立った経験の持ち主です。当時は、上智大学に日本初の外国語学部が創設され、女性にも門戸が開放された（女子学生のいない時代には女役は女子大学等から特別出演してもらっていた）こともあって語劇祭そのものも大変な上潮ムードにつつまれたものでありました。最近の語劇祭には当時のようなお祭りの傾向がなくなり、内容が洗練されたものになってきているといえます。しかし先輩の一人として、当時のような全学的な盛り上りと活気を今後の語劇に期待したいところです。

素人演劇のよさは、何と云っても裏方をも含めたスタッフのチームワークにあるといえます。しかし活動の集大成である公演が再現不可能な一回性の作品であるだけに難しさもあると云えます。外国語劇にはさらに異文化との直接的な触れ合いという要素が加味されるわけですから語劇祭の意義は自から明らかです。

後輩諸君が語劇祭に注ぐ情熱と努力が上智人のみならず公演を観て下さる方々ならびにご支援下さった全ての人々に新しい活力と生命力、そして精神的糧にならんことを祈り、第二十回語劇祭記念公演に心からの拍手を送ります。

外国語で芝居をすること

上智大学語劇祭が今年で二十年目を迎える。過去のパンフレットを見ると、代々の委員長はこの紙面を使って、語劇の意義と目的を説き続け、その移り変わっていくものと、移りようもないものには、一つの歴史を見る思いがする。今年は、その歴史に僕達が一ページを加えようとしている。

さて、日本人が、日本で、日本語以外の言葉を使って、日本人を対象に芝居をする時、一体何が伝わるだろうか。実に様々な解答を僕は聞き、読み、教えられてきた。曰く、その民族の伝統、歴史、文化等を最も原初の形で提出してみせる。その上、その民族の文化の総体を理解し、把握できる。翻訳劇の違和感を埋める。未翻訳の芝居を上演できる等々。

しかし、民族の伝統、歴史をより正確に理解し、言葉を通してその民族性を考えようとすることも、これだけ情報過多の世の中、そのための本を二、三冊読む方が、どうしても早いだろう。また、その民族性を超えているから芝居として残るのであるのだとすれば、その民族性だけを追求しても無意味であるはずである。会話の勉強ならば、やはり、わけのわからぬ芝居の本よりも、会話の教本の方が効果的である。翻訳劇の違和感を埋めるといっても、その言葉を解さない人々の前でどういう意味があるのか、という問題がある。第一坪内逍遙にしても小田島雄志にしても、「Yes」を「さよう」と訳そうが「そうとも」と訳そうが、シェークスピアの芝居の魅力全体から考えれば、取るに足らぬことだと考えていた。僕自身、ロシア語で芝居をしても、打ち上げコンパの醜態や、人間関係のいやらしさについて勉強になったという実感はあっても、あの広大なロシアの大地を「民族的」に理解したなどとは、おこがましく言えはしない。

そこで、思うのである。演劇という表現形式を用いる以上、何語で、どの民族が、どの国で芝居をするかということとは、実は、本質的な問題ではなかったのではないか。

古典劇から始まって、近代、現代劇を経て、前衛劇、そして伝統芸能への過程で、どれだけの多くの芝居や、劇作家、演出家達が、演劇という形式の中で、言葉を使って、言葉を超えようとしてきたことか。限られた空間の中で、人と音と光と闇とが、日常のものではない時間を創り出す。あるいは限られない平面の上で、太陽の光や月の光、梢に騒ぐ風の中で、同じように日常以外の時間を創ろうとする。その完成した一種の異常さが芝居であるとすれば、言葉が理解できなくても伝わるものがあるだろう。伝わるものが全く感じられないのは、言葉が理解できないためではなく、芝居自体の完成度が低いためである。当然、ある程度の情報は必要であり、それさえ与えておけば、舞台と観客との感覚の交換はできるはずである。とりあえず、感覚が通じれば、観客は舞台と一体化し、当然、それは芝居を成立させることになる。

強引な話であることは、僕もわかっている。語学が完璧でないと、この話は無意味だし、いくら語学的に完璧であっても、観客が台詞の意味がわからなかったら、結局限界はあるだろう。ただ、芝居を創る側とすれば、台詞を語学的に完璧にしなければならぬのは、何語を使おうとも同じなのである。しかし、それだけにとどまっていれば、何のための二十二年間であったのかという疑問さえ起こる。当然、二十年間の積み重ねの上に、芝居の完成度を高めていくべきだと思うし、外国語にしろ、日本語にしろ、演劇という形式による限りは、芝居自体の完成度を目的とすべきなのである。

最後に、事務処理能力の皆無な僕を支えてくれた友人たち、学務部の方々、原稿や座談会やらですっかりお世話になった各学科の諸先生方、OB方に心からお礼を言いたいと思います。

第20回実行委員長

永田 靖(露)

四三〇年の演劇寸史

独文学科教授
尾崎賢治

語劇という概念をもっと広くとれば、上智大学における演劇の歴史には、四百年以上にわたる前史がある。それは丁度、大学の沿革がフランススコ・ザビエルに遡るようなものである。というのは一五三四年にパリで結成されたイエズス会は、すでに一五五〇年頃に北ヨーロッパ特に、ドイツ語圏のイエズス会諸学院で、たい

てい教授たちが作った脚本を、その教授の演出で学生たちに演じさせるという習慣を始めているからである。職業俳優がまだ存在せず、市民の手による宗教劇や謝肉祭劇が衰退しつつあった当時、父兄を含む一般市民に公開されたこの「イエズス会劇」が占める地位は、それだけ大きかったわけで、ヨーロッパ演劇史においてかならずこれに一章が割かれる演劇伝統にまでな

った。これが十八世紀に一時途切れるのは、イエズス会の一時解散、したがって学院の閉鎖によるのであるが、間接的には啓蒙主義的合理主義化の風潮によるものである。だから会と学院の復活も、バロック演劇を代表する一つであるイエズス会劇は、バロック文化そのものが評価されるようになる二十世紀初頭までほとんど無視されていた。そのほかに、十六・七世紀のイエズス会劇の多くがラテン語であり、それがもっ

とも盛んであったのがドイツ語圏であったため、「国民文学」とか「国民演劇」といったお題目がはやった十九世紀のドイツでは、文学史家からも冷たく扱われた。

もちろん、作家ではない教授が毎年の行事のために毎回新しい脚本を、いわば仕方なく作られるのであるから、後世の芸術的評価に耐えられぬ作品が多いのも致し方ないが、これらの中で日本のキリシタンをテーマにしたものが百二十タイトル以上あった(インモース教授)ことは特筆してよいだろう。しかし確実に後世に残った作品もある。特に最高傑作であるヤーク・ビーダーマンの「ケノドクスス。パリの博士」(一六〇二年アウグスブルク初演)は、一九七三年秋にバイエルンの州立劇団が上演したし、同じ作者の「フィレモン」は、筆者が七三年ウィーンのプログ劇場で(現代ドイツ語訳)見ている。

話を一足跳びに東京へ移すと、昭和十何年から「ファウスト」上演では、これを激賞した独文科長ミュラー教授が、演出した学生に喜んで卒論の代りとして認めたということである。古き良き時代といえるが、じつはミュラー教授がイエズス会劇研究において世界的に認められた権威であったことも、なにかの因縁である。

筆者と語劇との関係は、戦後最初の語劇である「ヴィルヘルム・テル」を手伝ったときからである。まだ「リング射ちの場」だけというささやかなものだが、戦後語劇の嚆矢(英語劇はもっとあと)であったことは誇ってよいと思う。ただ女子学生がいないので、男が見目麗わしく貌変した。本格化したのは戦後最初の「ファウスト」(主演坂本康実君)からだろう。ドイツヤーリングが軌道に乗り、他大学の協力を得られるようになっていたから、もはや女形の出番はなかった。

それからの発展は記すまでもない。記憶に残る名舞台のうち一つだけあげれば(これもドイツ語劇で恐縮であるが)、三十四年頃の「黒いクモ」であろう。この上演のために、マックス・ラインハルトに学んだという演出家をわざわざスイスから招聘したのだから当然であるが、語劇といえども、いや語劇だからいっそう演出が重要であるということの意味していよう。

実を言うと、私は「語劇」というものをそれほど数多く見ているわけではない。だから、これから書くことは、まったくの見当はずれではない可能性が大いにあることは承知の上で言うのだけれども、語劇というと、普通はやはり、外国語を勉強するための一つの手段と考えられているのではあるまいか。それというのも、演ずる者にとってばかりではなく、観客にとっても勿論外国語である言葉で劇を演ずるといことは、一つの芸術上の表現として見れば、かなりナンセンスなことであるからだ。演技者自身も、母国語の場合と同じように敏感にセリフに反応することは期待できないし、ましてや観客が、母国語の芝居と同じようにセリフを理解し、笑ったり泣いたりするとはまず考えられない。

けれども、それにもかかわらず私は、語劇はやはり、あくまでも「劇」であることを目指さなければならぬことではないかと考える。そうであれば、語学の勉強の手段としての目的自体、十分に果たされないのではないかと思うのである。

もし外国語というものを、単に外国人と意志を疎通させるための道具にすぎないものとして、単なる知的操作の対象としてしか考えないのなら、そうした道具を身につけるには、別に劇な

どという、やたらに手間ヒマのかかる厄介なものに手を出す必要など少しもない。会話の教科書のモデル・ダイアログでも暗誦していればそれでいい。けれども外国語を本当にモノにするということは、単にそれだけのことではないはずである。それによってものを感じ、それによつてものを考え、それによつて感動し、それによつて笑い、それによつて他人を説得させるところの、生きた人間の言葉として外国語を身につけることであるはずだ。要するに、その外国語を生きることを学ぶことであるはずだ。

外国語を学ぶということの意味をこのように捉える時、はじめて外国語で劇を演ずることの語学的意味が理解できるのではあるまいか。単なる道具としての語学なら、モデル・ダイアログの暗記にでも精を出したほうがよほど気がきいている。けれども外国語を生きるためなら、みずから外国語で一つの役の内部に分け入り、その人物の感情のひだをさぐり、心理を分析し、あるいは相手役の訴えに耳を傾け、その場の情況に鋭敏に反応し、一人の架空の人物として役を完結させること——要するに、あくまでも劇として語劇を上演すること以上に有効な手段はほかにあるまい。その時こそ、はじめて我々は、単に我々の外側にある対象として、あるいは器

用に操るべき単なる道具としてではなくて、それによつて人間が喜び、悲しみ、笑い、泣くところの、生きた人間の言葉としての外国語にジカに触れることができるだろう。

外国語を習うための手段としてその目的を果たすこと自体のためにも、語劇はあくまで「劇」として取り組まなければならないと私が言う所以は、これである。

そして私は夢想するのだ。もし語劇が、本当に演劇的表現としてすぐれたものであり、役者たちが本当にそれぞれの役を舞台の上に生きているなら、観客は、たとえ言葉の辞書的な意味はわからなくとも、必ず劇としての感動をおぼえるに違いないと。なぜなら演劇というものは、究極においては、言葉を表現の媒体としながらも、いつでも言葉を越えた何ものかを指しているものであるからだ。本当の演劇的感動は、言葉の群の彼方に浮かび出るその沈黙のうちにこそ秘められているからである。

なぜ語劇をやるのか

英文学科教授
安西徹雄

座談会 80年代の語劇へ向けて

出席者 水谷 迪夫 昭和42年度
 宍戸 和郎 昭和52年度
 谷口 吉光 昭和53年度

仏語学科卒

西語学科卒

西語学科卒

仏文学科卒

西語学科二年

西語学科三年

西語学科四年

西語学科二年

司会 永田 靖 露語学科三年

——今年で上智大学語劇祭も20年を向えることになりました。そこで今日は、過去の語劇祭を振り返りながら、これからの語劇祭というものを考えて行きたいと思います。まず、昔の語劇祭のようすからお話し願います。

水谷 僕自身は、あまり語劇委員としては活動していませんでした。ただ、僕は、フランス語仏文研究会という、俗にいうフラ研に属していて、その年間スケジュールにフランス語劇というものがありません。それで、フラ研と同様に、クラブのスケジュールの中に芝居をするというものが集まって、いわゆる語劇委員会というものを作っていたんですね。で、僕の頃は砂防会館が一日で、そのころは、ESSとかポルトガル語劇とかあったから、六つですかね、

過去、語劇祭にたずさわってこられた先輩諸氏に「OB回想録」として、当時の思い出話や今後の語劇への期待などを寄せていただきました。

大久保義人

昭和53年露語科卒

早いものでもう四年になる。「語劇祭」にとっては、出直しの時期だった。私自身にとっても主役に挑戦するという重大な年だった。四年前、二年生の時である。

委員長として前任者から引き継いだものは何もなかった。前年度、予算は大幅に減らされ、語劇祭中止の声も出ていた。当時学生部長だった木村直司先生の語劇に対する深いご理解と全面的バックアップがなかったら、語劇祭は中止していただろう。こうして第二十回の語劇祭を大々的に催せるのも木村先生のおかげといっても過言ではあるまい。

仏語の石野、独語の山根両君と共に何もかも自分たちでやった。提出する書類の書き方から広告集め、印刷屋の手配、一切初めてのことだけに、あらゆることを聴きに回り、教えを請わねばならなかった。素人の私たちに学生部の方々は心良く協力してくれ、助言してくれた。私たち三人も、何度も学生部に足を運んで、語劇祭を往年のように盛り返そうと必死だった。今こうして当時を振り返ってみると、改めて学生部の方々の協力が大きかったと感謝する次第である。

「語劇祭」というのは、各語劇が連続公演を行うというだけのもので、何ら一体性があるわけではない。各語劇が勝手に公演をすれば、別に「語劇祭」という名称でとりたてて強調する必要もないではないか、といった声が出たことがある。たしかに正論である。しかし、「語劇」の歴史を考えると、一冊パンフレットを作り、「語劇祭」として結果するという「祭り」こそが先輩が営々と築いてきた遺産なのである。だから決して実体のないものではないということは今後語劇祭に携わる人は承知しておいてほしいと思う。

劇というものは創造の作物であり、しかも個人一人の力でできるという

アメリカンが飲み放題

毎月14日は「カウンターデー」です
可愛いキャンデーをプレゼント

ケーキ & コーヒーショップ **カウンター**

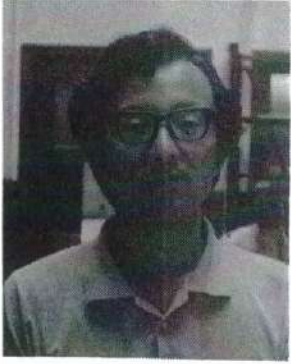
四谷店 新宿区四谷1-7 浜ビル1F
Tel (357) 8728・9890
中目黒店 目黒区上目黒1-23-7 加藤ビル1F
Tel (715) 8708・(710) 8723

TEL 261-0870
麴町5-5
上智大学 専門そば
S-Jハウス前

六つの劇団がぶっ続けてやりました。普通語劇祭は年一回、10月にやりましたが、フラ研ではフレッシュマンウィークの四月にも公演していただきましたから年中芝居ばかりでした。

穴戸 ス페인語劇の場合は、一時完全に活動が停止してしまった時代がありまして、僕らが一年のときに、西劇の生き残りの先輩が二人おられて、西劇を復活させようという話もちあがり、僕ら一年生が復活させたわけなんです。だから、というわけでもないんですが、語劇祭の仕事にはあまり関わらなかった。スペイン語劇が、再生して間なしで、不十分だということ。語劇祭に参加するのを一年のばししたり、僕自身出演をやったりで、語劇祭自体の仕事はあまりやらなかったなあ。

谷口 僕の時代には、フランス語劇はあるんだかないんだか、わからないようなものでした。僕が委員長をした時には、人は一人か二人しかいなかった。今年はだめだろうだめだろうと思いつながりというのはいない。他劇団は、ぬけている年が少しありますが、語劇だけは、ずっと続いているんです。それが取得のようですが、その頃から語劇同志のつながりというのはいない。ただパンフレットと一緒に作っているとか、そうした意味しかなかった。講堂を取る時に語劇祭は四週間まとめて取るということで他の劇団ともめました。僕はなるべく続けてとろうとしたのですが、他の劇団との交渉がつかなくて。問題



水谷 迪夫

うものではない。多くの人々が表に活躍してはじめて「創れる」ものである。「創り」上げた喜びはだから一層満足のいくものになるのだろう。原語で演ずるだけに、その持つリズム、言葉の美しさは翻訳では味わえないものがある。「創る」喜びと原語を観賞できる楽しみ、この二つが語劇の大きな魅力であるといえる。

舞台でスポットライトを浴び、緊張感とそしてある種の「怯え」を味わったこと、これが私にとっての「語劇「祭」」であった。私が四年前語劇に携わってきたのも、「創る」という喜びをわかち合ってきた仲間がいたからであり、この「怯え」の感覚が忘れ難かったからである。

尾島孝一

昭和49年西語科卒

何年前の事になるか考えた
恐らく二十歳の頃の事だから
もう七、八年の歳月が経っている

西語劇に取り組んでいた時
自分の心を何が支配していたのだろうか

始めた動機は混濁の中
進行する過程では

困惑

焦燥

そして、自己嫌悪

感情の対立に苛まれ

自が力不足に憤怒した

それでも続けた

そして思った

誰も自分の気持を解さなくてもいい
また知る必要もないのだと

上智のためなら
どんなご用でもどんな予算でも

学割コンパ

— 広間 100名 —

四谷駅 四谷口前通り
新宿区四谷本塩町4 Tel(357) 0551

割 烹 祥 平
ザ・グラスホッパー

健康保険医療機関

小谷歯科

月～金 { 10～12AM
 1～6PM
土・日・祭日(休診)

ホテルニューオータニアーケード
TEL (261) 1111 内線2578
直通 (265) 7587



宍戸 和郎

はそのころから多かったです。

——今までの話だと語劇祭というものは名ばかりのもので、大きな意味というのではないように思うのですが。

宍戸 なぜ「祭」という文字が使っているのかというと私たちの場合は、一週間づつ四週間ですが、水谷さんの時は一日に全部の劇団がやっちゃう。そうすると祭の意味が一層出ていたと思うんですがね。

——僕らの方としても、語劇祭として四つが集まると、暫定助成金として学校から金がおくるんです。

谷口 あと、四つの劇団が全部の公演が終ったらいっしょに打ち上げをやりますよね。あれは今でも続いているんですかね。あれなどはいい試みだと思うんですが。

水谷 僕たちの頃は唯一、パンフレットだけでしたね。大学に語劇祭だぞ、としてアピールできたのは。

関川 僕は、去年委員長をしたんですが、事務的な仕事に追われて、語劇祭の意味を考えられなかった。ただ、一つ問題が出てきて、語劇祭が大学行事であるにもかかわらず、一般の学生の中に浸透していないということだった。19回の時には宣伝活動に力を入れました。その上、大学からの要望で、字幕をつけることになったのですが、仏、独はそれに反対して、パンフレットにあらずじを書くことにしたんです。

公演は終わった

残ったものは、満足感だったのか

それとも、虚無感だったのか

今でもそれは、はっきりしない

僕の最初で、そして最後の西語劇での活動だった

それから数年が過ぎていき

僕は一介のサラリーマン

今でも時々夢にみるのは青春を賭けたあの西語劇

あの時に戻りたいと思うのは

間違いだろうか？

少なくとも自分自身を燃焼し尽くせたあの時に……

五井征治

昭和41年仏語科卒

——語劇祭二十周年によせて——

私達がフランス語劇の主役として四苦八苦したのは十四年前のことである。夏休みにも扇風機もない蒸し暑い教室、あるいはかまぼこ型のフランス文化研究会（通称フラ研）の部室で、授業の時以上に熱中して稽古に、舞台装置の製作にと精を出したものである。その年の秋に上演した芝居はモリエール作「嫌嫌ながら医者にされ」（Le Médecin malgré lui）という笑劇であった。私たち素人の、嫌嫌ながら役者にされたる訳ではないが、にわか仕立ての大根役者にとって、演技そのものは全く未熟なものであったが、台詞の表現は、リーチ神父様の熱心な指導によって、フランス人の観客に理解してもらえたと自負していた。今思え

El Castellano

本当のスペイン料理を知ってもらおうと、Sr. Vicente が腕をふるってあなたを待っています。

スペイン風田舎料理



エルカステラノ

●営業時間 PM 5:00~PM 11:45
 ●渋谷区渋谷 2-9-12 丸三青山ビル
 ☎03(407)7197 (日曜定休)

——字幕の話がでたのですが、対象を言語の理解できない学生にまで拡げると、その時、その芝居はどんな意味を持ってくるんでしょうか。

水谷 僕らも、日仏会館で、フランス人を呼んでみせたことがあるんです。語劇祭の後で。砂防会館では、観客の前で演じるだけでせいっぱいで、何かをわからせようとか、拍手をもらおうとかは問題外でした。日仏会館の場合とは少し異なって、砂防会館に見に来る人も、語劇だからというんで、仲間、身内関係が多かったみたいです。意識が低かったと言えは言えるのですが、語劇をやること自体に、それだけに意義を見つけているようです。

宍戸 私たちも、スペイン人だけを対象としているわけではなくて、上智大学生を全員、一応対象としていました。で、やる限りには、理解してわかってもらって楽しんでもらいたいと思ったから、僕から字幕をつけ始めたんです。

谷口 字幕をつけると、観客が字幕ばかり見て、役者が白けちゃうて所がある。それに芝居に字幕をつけること自体が何とつか俗っぽいってうか。

飯塚 一応伝統ののっとして、この秋もつけるつもりなんです。今年の春もつけたんですけど、つけてから技術的な問題で、舞台は暗いのに字幕だけが明るいとか、舞台が明る過ぎるために字幕がみえなかったりで……。ようするにどっちをとるかなんです。言葉がわからなくても、雰囲気とか、通じるものはあると思うのですが。

ば、日仏文化会館で再演を要請されたということは、演技も台詞も含めて全体としてよく出来たのであろう。

私達にとって、フランス語劇の上演は、フラ研の活動そのものだった。語劇を通してフランス語を、大げさに言えばフランスを体験できた。少しかたい話しになるが、フランス語を身体全体で体験するという意味で、フランス語劇は最も効果的なフランス語勉強法ではないだろうか。語学を勉強している諸君の中に、読解力、記述表現力は得意だが、どうも会話が苦手という者には、ぜひ語劇への参加を勧めたい。稽古の中でリーチ神父様に徹底的に矯正された発音、イントネーション、アーティキュレーションは、現在、ビジネス会話の中で大いに役立っている。

語劇祭二十周年にあたり、このよき伝統を引継ぎ、活躍されている諸君に賛辞を送るとともに、フランス語劇上演が成功を収めることを期待している。

多田 暁

昭和54年西語科卒

今から二年半前、即ち当時二年の小生達がクラブのリーダーシップを任せられた時に初めて、スペイン語劇は一つの組織という形をとるに到り、クラブ名も現在のスペイン演劇研究会となった。

組織づくりを思い立った理由は多々あったが、基本的には、「西語劇に参加する人間と、仏・露・独語劇の人間との演劇に対するとりくみ方の大きな違い」という一言に尽きるであろう。少なくとも我がクラブに入ってくる新人の中で、「スペイン演劇に興味をもった」という奴は、小生の知る限りにおいて在不在。市販の本で、スペイン演劇の翻訳ものは数える程であり、且つ又大衆への浸透度の薄さも他の外国語演劇とは比較にならないことから、小生の言っていることが御理解頂けよう。故に、クラブ入会の動機が希薄な者達を一つにまとめるには、組織づくりはどうしても必要なことであった。——尚、小生は別に動機等というものは無くても良いと思っている。又結局の所、当時本当に組織として機能していたかと言えば、小生は一言もない。——

反面、我が劇団が各劇団諸兄に胸を張って言えることは、他の大学に二十年近くに渡り——直接的にしろ間接的にしろ——御世話になって来



谷口 吉光



上智大裏門からすぐ本格的木彫のあるハイセンスな店！
千代田区麹町5丁目7番
TEL 265-8669



スペイン語

冬期講習 11月26日～3月7日

- ☆ 週3回 初・中・上級研修会話クラス
- ☆ 月例の講演、映画、音楽会へ招待
- ☆ 修了者には留学就職のあっせん
- ☆ 原書・専門雑誌販売
- ☆ ギター・生花・すみえクラス

財団法人 日本スペイン協会 CASA DE ESPAÑA
東京都新宿区信濃町33 真生会館ビル 6階
TEL 353-0428



関川 誠

スペイン語でやる以上、言葉のちょっとしたニュアンスなどやはり言葉がわからないと通じないと思うんですが……。

——本で読んでみますが、安部公房が自分の息子といっしょに、モスクワでリュビモフ演出のブレヒトを見るです。公房はロシア語はできません。でも実際に感動してしまうわけです。彼自身ショックだったと言っているぐらいですからね。その上に驚いたことに彼の子供まですっかり楽しんで見ていた、というんですね。同じ一つの芝居から異なる感動の仕方をする。しかも、言葉が理解できないで。そんな話を読むとじゃ一体、芝居って何だろうという気になるわけです。

倉林 僕らは例年にのっとって、字幕はつけないつもりなんです。去年役者やった時に、終わった時に、ドイツ語わかんない友人なんです。が、彼が来て、よかった、迫力があつたと言ってくれたんです。そんなことがあるなら今年も使わなくていいんじゃないかと思うんです。観客がこっちの雰囲気とかやる気とかをわかってくれたら、それが一番いいんじゃないか、と思うんです。

谷口 字幕をうまく作って、うまく操作さえすれば、それ程芝居のじまににならないのじゃないか、台詞が短かく、一目でわかるようにしてあれば……

倉林 芝居によって、長台詞のたくさんある

たという事実である。生意気な言い方ではあるが、所詮どの劇団も上智であることには変わりない。私事で恐縮だが、今の小生にとって、他大との付き合いがどれだけ有益なものであったか測り知れない。

小生は非常に憂いをおぼえるのである。一つのサークルがこじんまりとまとまってしまうことに。語劇祭というものが単に其のクラブの集合体で過ぎないものになってしまっている……。

最後に一言。「独・露・仏語劇の皆さん、スペイン演劇研究会のメンバーに暖い眼差しを送ってやって下さい。そして我が後輩達よ、このクラブに誇りをもって下さい。」

登坂(土田)禮子

昭和43年露語科卒

二十周年おめでとうございます。

育児戦争の真只中で、僅かに朝のラジオ講座を洗濯機をまわし乍らとか、二人の子供に食事をさせ乍ら聞くのがせいぜいの、ロシア語に縁の無い毎日を送っております。語劇も記憶の遥か彼方になってしまい、書くに当たって古いパンフレットや台本を出してきている次第です。一年生から三年生まで何らかの形で語劇に係わっていましたが、自分が出演した一年と三年の事がよりはっきり、思い出されます。一年は「プラトン・クレチェット」、十三・四歳の子供の役でした。A B Bをやっと物にした頃、三年生からスカウト?!。台詞は意味も判からず口うつし。c Y T P A の y は思い切り口を前に出し、T と P の間に O が入らないようにと何回もやり直し、朝起きぬけに小山に登り、潮を前に「おーい雲よ……」と叫んだ発声練習、その後の朝食の美味しさ、秋の早い青木湖の小さな駅に咲いていたたくさんさんのコスモスの花等合宿の思い出。三年は「イルクーツク物語」コーラスと語監を担当しました。自分の発音も儘ならないのに他の人のを見たなんて、ずうずうしかったなと赤面の限りですが、夏休みには、江沢先生に助けて頂きましたし、貴重なワスタンゴフ劇場での公演録音を手に入れる事ができた蔭で、今は亡きポトスタヴィナ先生から、舞台の上からあれだけの大声でもロシア語として意味が分かると言われた時は、ホッとしました。幕が降り、出来・不

お好み焼と焼そば

- クラス会、ご宴会等に御利用下さい。
- お料理 200円～380円まで。
- 毎週土曜日オールナイト

お一人様 1,000円
(生ビール飲み放題、お好み焼喰べ放題)

四谷見附 **仙** **く**
新宿通り ☎ (357) 9084

レストラン エリーゼ

TEL. (357) 6004

● 営業時間 11:00a.m.～10:00p.m.

赤坂店 グリルエリーゼ
築地店 たけだ

芝居だと、長台詞がわからないと、早い話白けるだけで、雰囲気もなにもあったものじゃない。

水谷 劇を本当にわからせるのだったら、日本語でやるのが本当でしょう。そうでもしなければ全学生がまとまって関心を持つようなことはない。昔、僕らがやってた頃は、外国語のわかるやつばかりが来てたんじゃない。要するに語劇だから来る。内容がわかるわからないに問題があるんじゃないんだね。だから語劇の意義はオリジナルの言葉でやるというただそれだけじゃないだろうか。会話がうまくなくなるとか、そんなことに目的を求めるのではなくて、原語で芝居をするという所に意義がある、と思うんですね。

関川 外国の芝居を公演する時に、最もいい方法は原語だと思うんです。台詞は訳せても、向うの人の風習だとか表情とかは訳せない。訳せないからそれだけそのままやっちゃう。日本人が、かつらをつけて、外国人の振りだけをする。なれてしまっても感じないけれど、考えてみればおかしな事だと思うんです。

谷口 やる方としては、日本語でもフランス語でやってもあまり問題ないのじゃないか。何も何回も台詞の練習やって、意味を調べて、舞台上立つ頃になるともう完全に自分のものになっている。だから問題は見せる時について考えるところで来る。

倉林 でもやってる方でも意義を見出しちゃうんです。そんな風に言い切れるかどうか。



飯塚 久美子

出来はともかく、たった一日の為に、皆で力を合わせ約一年かけてきたことの満足感と、未だ興奮の残った火照った頬に十二月の冷い空気が、とても心地良かったことを覚えています。語劇が、先生方のお顔を拝見でき、卒業生に会える場としても末永く続いていくよう望みます。

新倉真矢子

昭和53年独語科卒

語劇に携わった者の一人として、外国語で劇を演じるのは、やはり相当難しいものだと言わざるを得ない。

観客の方は、往々にして言語自体（発音・イントネーションが云々）に気を取られたり、又は、言語を抜いて動作（自然・不自然等）ばかりに目を向けたりで、「語劇」をどう見るかに苦しんでしまう。この点は、演じる側にしても重要な問題なのである。

私個人の意見を云わせていただけなら、語劇祭で強調したいのは、私たち日本人が原語の台詞から精一杯の雰囲気を取返し、自分なりに抱いた役に対するイメージを舞台上で表現することだと思う。例えば、ドイツの宿屋のおかみは日本の女将とはキャラクターが大きく異なる。日本の女将は一般にしっかりと落ち着いたイメージを持つが、ドイツのおかみはより計算高く、金銭欲の深さが前面に出る。

個性創りから雰囲気演出へ。当然、言語の問題も付いてはくるが、私が参加した劇では、何と云っても前述のようなイメージ創り、雰囲気創りに苦勞をしたし、又、それが楽しかったものである。

毎年今頃になると、読み合わせ、合宿、立ち稽古など、練習を重ねたことを思い出す。劇を成功に持ってゆくのは、キャストだけではなく、スタッフとの折よい協力である。今後後輩諸氏には頑張ってもらいたいと思う。

守岡喜一

昭和50年独語科卒

語劇祭二十周年おめでとう。

運営委員の方々、各語劇の裏方さん、出演者の方々、本当に御苦労様です。

フランス産 ASANOYA 浅野屋 ASANOYA

欧風パン・デニッシュ・ワイン・手造りのジャム

新宿四谷店

東京都新宿区四谷4-4-12 TEL. 03-359-0707

至新宿 四谷四丁目 四谷三丁目

セーフー 消防署

浅野屋 フocol 群馬銀行 丸正 地下鉄 四谷三丁目

新宿四谷店 東京都新宿区四谷4-4-12
TEL 03 (359) 0707

長野軽井沢店 長野県北佐久郡軽井沢町旧道
TEL 02674 (2) 2149

東京都新宿区四谷4-4-12
TEL 03 (359) 0707

長野県北佐久郡軽井沢町旧道
TEL 02674 (2) 2149



僕らとしても、日本語じゃなく、ドイツ語でやるからには、原語の雰囲気にも忠実にしたいと思うんです。で、その上でお客さんが、その原語の雰囲気を感じてくれればそれが最高だと思います。翻訳に頼ると、本当に雰囲気がくずれるし、解釈まで変わってくることもあるんです。だから逆に言うと原語でやる場合には解釈は一つしかあっちゃいけないと思うんです。

水谷 僕はこう思うんです。一番最初は語劇じゃないか、語劇でいいんだ。別に解釈がどうの、演出がどうのと、観客は期待しているわけじゃない。ドイツ語の芝居が見たい、フランス語の芝居が見たい、と観客は思っているわけです。舞台装置がどうか、と思っているわけではない。だから語劇でいいです。外国語で劇をやるということが最も基本で、それだけでいいんじゃないですか。

——結局そういう所に落ちつくようですね。最後に、今年の語劇祭に関して、やる側の抱負などを。

倉林 芝居に興味があり、ドイツ語もある程度できるやつらを集めて、ゲートの「シユテラ」を全く古典的にやろう。日本人が日本人の感覚で解釈して、日本人が原語で、こんな芝居を作ったんだ、こんな雰囲気の舞台にしたんだってことだけわかってもらえばいい。へえ、こんな芝居を作ったのかって思ってた下されば、それが僕らの目ざす最高のものです。

私と語劇との馴れ初めは、入学の年（一九六九年）Deutscher Ring

Ring に入部した事に始まります。当時は、この Deutscher Ring が全面的にドイツ語劇を主催していた関係から、部員は全員語劇への参加を義務付けられており、又、部員の人手不足もあった事から、ドイツ語初歩の私も何と劇の準々主役である「憎むべき仇役（HERO を暗殺した後、HEROINE に仇討ちされる）」に抜てきされ、夏休みから本番までかなりの練習を積んだにもかかわらず、本番では相手の台詞の終わりの部分に全神経を集中して、それが終わるや否や、丸暗記した自分の台詞を繋げるのがやっとでした。それで劇の最後に舞台上で HEROINE に殺され、台詞を言う必要がなくなり、幕が下りた時の解放感、充実感は今でも忘れる事ができません。

当時は大学紛争も下火となり、校内での集会にも何となく虚脱感が漂い、それと共に大学生気質も変化を見せ始め、クラブ活動よりも個人の興味、趣味を優先する傾向が顕著となり始めた頃で、ドイツ語だけでドイツ語劇を続けることは困難となり始め、一九七一年の「ロムルス大帝」の頃から、独語、独文の有志の協力を仰ぐようになり、その後二、三年のうちに独語劇はドイツ語を離れ、ドイツ語劇に興味を持つ独語独文を中心とした有志の手で運営されるようになりました。

このように紆余曲折を経て、今回、ドイツ語劇が第二十回を迎えた事に深い感銘を憶えます。

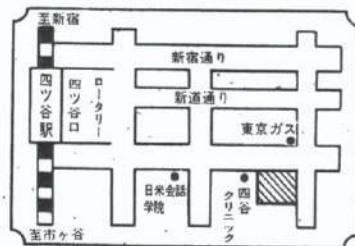
当時も広告取り、人員集め、合宿、舞台の手配、資金集めと問題を抱え、又、劇そのものに関しても「何故ドイツ語で演じるのか」というあまりにも哲学的(?)な問題から芸術性を如何に表現するか、等々議論がなされ、でも結局は結論を見ないまま本番を迎えてしまうのが実情でした。現在も多分同じような問題を抱えて、皆様四苦八苦なさっていることと思いますが、皆様、これらの問題を乗り越え、第二十回の語劇祭を成功に導かれることを期待して止みません。

忘れたはずの舞台の台詞をふと思いつくことがあります。そんな時、台詞とともに当時の仲間の顔が無性に懐かしく憶はれます。このような語劇祭が皆様の努力を土台に更に続く事を祈ります。

カフェ・ドール/手作りのケーキとお茶

Café D'OR

●AM9:30~PM8:00



新宿区三栄町6 小棟ビル1F Phone 355-6874

◎生ビール...150円

◎料理半額...250円

〈毎日7時迄〉

カウンター御利用の時

| | |
|-----------|-------|
| 席料 | 400 |
| ミネラル | 200 |
| 料理(例) | 400 |
| 小計 | 1,000 |
| サービス料 10% | 100 |
| 合計 | 1,100 |

◎サントリー オールド

¥2,900 平常

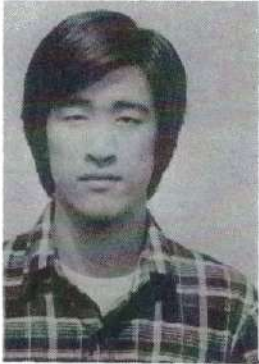
ホワイト (5~11:30分)

¥1,900

◎お料理¥300より

パフハウス
サントリー館

☎ 359-0891



永田 靖

飯塚 いつもだと、二時間ぐらいの長い芝居で、愛憎の物語なんです。こんどはガラッと変わって、理解しやすい話なんです。そんな芝居を作っていく過程で、私が好きな芝居というものを、他の部員や友人にも好きになってもらいたくって。スペイン語で芝居をするのだからもう一つ言えば、ほんの少しでもいいからスペインという国の空気と風土とか、文化とかを勉強じゃなく、ハダで感じる事が少しでもできたらと思って。

——色々、意見は異なっていると思いますが、語劇祭という以上、原語を使って芝居をするのが、最低の基本だと思えます。そこから発展して、どんな異なる芝居ができるかは、それぞれの劇団によって違って当然だと思います。何しろ、20年間も続いて来たことだから、それなりに評価すべき所もあって、これからも、そういう所を探りながら、いい芝居を作っていくと思います。今日はどうもお忙しい中本当にありがとうございます。

吉野信次

昭和46年仏語科卒

ズミノヤチオ氏「どうもどうも。本日は又何故か語劇祭の思い出話などやる様、お話がありまして……ええ色々のことがありましたな。」

梅小路毒麻呂氏「沢山あったよ。アナタは長いセリフを勝手にカットしたでしょ。五分のセリフを五秒で終えたりして。」

花鳥蝶々氏「そうそう、将軍達のおやつの時。あれにはそばにいた私もあせったよ。あつと言う間にセリフが終ったんで、次のセリフがどのにかえてしまつて……。」

ズミノ氏「どーもどーも。しかし本人が一番あせりましたよ。血が逆流して体中が熱くなったと思つたら、たちまち氷ついた様になつちまつて……。」

梅小路氏「デモ、アナタはうまくのがれたでしょ。おつとまちがえた」などと言つて始めからやりなおしたりして。」

ズミノ氏「どおもおも。ちょうど 学者風の將軍の役で知識をひけらかすセリフだったから、そんなに不自然でなく、ごまかせた感じでしたな。」

花鳥氏「あの事件に気がついたのは、役者とスタッフと先生方、それにズミノ氏のフランス語が立派なら、観客の外国人達ぐらいで殆んどのお客さんは気がつかなかったでしょうな。」

ズミノ氏「いやいや、どもども。まあそういった人達にも楽しめる様、大抵の作品はミュージカル仕立てだったので、自分達で作曲作詩振り付けをしたわけで本当に苦労しましたな。」

梅小路氏「ホント、ホント、バレエのレッスンなんか、夏の暑い教室の中でしごかれてまったくまいったよ。」

花鳥氏「そういうわけで本番はもちろん、その過程をむしろ楽しんでましたなあ。合宿では寸劇をやったり、落語のおおぎり大会をやったりさすがに役者がそろつてましたな。そんな中で、恋愛・失恋事件などもけっこうあつて、例えば……おつと時間でですか……。」

ドイツのフォークロア

文学の背景としてのわらべうたからアングラまで

編著者/D. シュトゥッケンシュミット
塚部啓道・水谷泰弘・小栗友一・柴田庄一 訳

A 5判・264頁 定価 2,500円

ドイツ文化の土壌を形成し、ドイツ人の心の糧となっている「文学の背景」と、「文学の背景」にあつて晴れの文学の舞台に出られないもの——ドイツ人なら誰でも知っている、ドイツ文学を読む前には是非知っておきたい領域をとりあげ、興味深く解き明かしたものである。

ウィーン・オペレッタの楽しみ

—レハール、カールマーン作品選—

西澤龍生・渡辺忠雄 編注
B 6判・208頁 定価 1,800円

近刊

ハンス・ザックス 謝肉祭劇集

藤代幸一・田中道夫 訳
四六判・約200頁 予価 1,000円

本店 113 東京都文京区本郷3-42-6・振替口座東京2-149・電話(03)811-7234(代表)
支店 604 京都市中京区寺町通御池南・振替口座京都5050・電話(075)221-7841(代表)

南江堂

- どん底……ゴーリキー……○1960
- 検察官……ゴーゴリ……○1961
- ワーニャ伯父さん
……チューホフ……○1962
- ごきげんよう……ローゾフ……○1963
- 初恋……ローゾフ……○1964
- プラトン・クレチェット
……コルネイチュク……○1965
- 結婚申し込み
……チューホフ……○1966
- イルクーツク物語
……アルブーゾフ……○1967
- 私のかわいそうなマラート
……アルブーゾフ……○1968
- ワーニャ伯父さん
……チューホフ……○1970
- 見世物小屋……ブローク……○1972
- 三人姉妹……チューホフ……○1973
- ヴェロニーカ……ローゾフ……○1974
- かもめ……チューホフ……○1975
- ターニャ……アルブーゾフ……○1976
- 披露宴……チューホフ……○1977
- イルクーツク物語
……アルブーゾフ……○1978春
- どん底……ゴーリキー……○1978秋
- 熊、記念祭
……チューホフ……○1979春

ソ連、ソヴェエトという単語の語感からくるアソシエーションは、一昔前の世代にとっては、レーニン、ゴーリキーなどで代表される黒と国防色のいかめしい色相でありましょうし、つい先頃までのイマジネーションはスターリンの微笑なき肖像から受ける静的な不気味さでありました。時代が移り換ってフルシチョフやガガリンによって私たちのよく知っているスラヴィクな人なつこい微笑が私たちの「ソ連」の代用になりつつありますが、普段私たちがイギリスといった時に思い浮かぶディケンズの小説に出てくる小市民の幾分疲れた姿態であったり、イタリヤといった時のあのスパゲッティを頬ばった貧しい勤労者であったりするような身近なイメージとは程遠いものがあるようです。なぜそうなのでしょうか、それは兎にも角にもソヴェエトに住んでいる3億といわれる人々の生活を直接的にも間接的にも接触する機会が余りに少いからであるといえます。直接にソヴェエト人と交際することは全く皆無というてよい現状ですし、映画、演劇による間接的な接触も決して多いとは言えません。

これは第四回語劇祭のときの演出雑感から抜粋したものであるが、ここに書かれてあることは、一六年たった現在、フルシチョフ以後の重々しい印象を持ったブレジネル時代もそろそろ終末を見ようかという現在においてもそっくりそのまま通用するように思われる。確かにこの頃に比べ、現在はソ連という国、そしてその国民生活は紹介されてきてはいるが、まだまだ不十分のようであるし、またそれ以上にわれわれの持つ興味の方が大きいのかもしれない。ということとはロシア語劇にあっては、この二十年間ロシア語劇を行なってきたこととどこか知らに必ずこのままだまだ未知のそして理解しがいと思えてきたソ連という国をそしてその人々の生活を劇を通して知り、さらに紹介しようとしたことがあったようだ。そしてこのことはこれからもまだまだ続いていくように思われる。

また、最近のロシア語劇の作品について言えることであるが、第一回語劇祭で行なわれた「どん底」を昨年の秋の語劇祭で、六七年に上演された「イルクーツク物語」を七八年春に、さらに今回の「かもめ」も七五年にすでに取りあげられている作品であるように、以前すでに上演された作品を再び取り上げられている。その理由としては、取りあげるべき作品がソ連には乏しくてやむを得ないということも言えるし、あるいはこれらの作品が持つ魅力が、われわれをして再度挑戦せしめるということ、どちらかと言えば後者の方の理由によるものであろう。特に今回の「かもめ」については、前回上演されたときにはそれが完成するまでに二度も主役が変わったというほど困難な作品であるそれがどのような作品となって再び現われるのか期待したいところである。

メルヘン・キャビン 赤坂 **がりがー**

午前5時迄営業

禁男の酒場

¥3,000で、食べ放題
飲み放題のコンパも
承ります。



アマン

がりがー

アルトビル8階
1F・マミーナ

会虎の門 外堀通り

東急プラザ

● 地下鉄・赤坂見附

TEL 583-9785

女性同伴の男性も
お気軽におこし下さい。
リザーブ ¥3,900

GRUPPE 79

我ドイツ語劇は、現在 Gruppe '79 という形式をとって運営されていますが、このような形になったのは、一九七三年の第一四回語劇祭からです。この年、ドイツ語劇の主催は、ドイツエルリンクから独立したドイツ語劇実行委員会へとうつり、同時に会場も、砂防会館ホールから、大学内の講堂、現在の上智小劇場になりました。

以前の上演の際は、学科の教授の演出、指導のもとに、ドイツエルリンクというドイツ文化研究会が主体となっていました。この時代は、独文、独語科の学生がほとんどドイツエルリンクに所属していたそうで、当時のパンフレットを見てみると、その参加人数の多さもうなずけます。しかし現在のドイツ語劇は、劇そのものをやりたい人の、自発的な集まりになっています。そのため活動は、全く自由で、多くの可能性もあるが、一方、団体としてのしっかりした骨組みがないために、組織だった活動がうまくいかない、という悩みもあります。また、年一度の公演がおわると、次の年度になるまで、実質的活動がなくなってしまい、責任者の引き継ぎがうまくいかなかったりすることも問題になっています。ただ、その救いになっているのは、先輩後輩間の個人的つながりの強さだといえるでしょう。卒業した後までも、年代の違う人どおしが、何か事あるごとに集まることのできるということが、これを証明しているといえます。回を重ねるごとに、数々の新しい問題も、持ち上がります。そんな問題をかかえながら、また今年も公演の日が近づきつつあります。



三文オペラ

ドン・ジュアン

セチュアンの善人

モンテビデオの家

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------|---------|--------|-----|----------|----------|---------|---------|-----------|--------|------|---------|-------|---------|-----------|-----------|-------|---------------------|
| '78 | '77 (秋) | '77 (春) | '76 | '75 | '74 | '73 | '71 | '70 | '69 | '68 | '67 | '66 | '65 | '64 | '63 | '62 | '61 | '60 |
| 青年の病氣 | 三文オペラ | 塔 | 愛 | 洪水 | セチュアンの善人 | モンテビデオの家 | ロムルス大帝 | 物理学者 | ジークフリートの死 | 血縁 | 黒い蜘蛛 | 初稿ファウスト | 女嫌い | 青い麦わら帽子 | シエイクスピアの死 | イエーダーマン | こわれがめ | 辛抱強く、従順なグリザルク边境伯爵夫人 |
| ブルックナー | ブレヒト | ヴァイス | フリッツシュ | グラス | プレヒト | ゲッツ | デュレンマツト | デュレンマツト | トーマ | ゴットヘルフ | ゲーテ | ゲーテ | レッシング | ミヒヤエル | ロスマン | ホーフマンスタール | クライスト | |

◆ドイツ語劇沿革

今、一番新しい
最も
信頼されている

現代独和辞典

● R・シンチンゲル
山本 明
● 編集者 ● 南原 実

●総頁1344ページ ●サイズ168×104mm ●定価 並装2,800円 革装3,600円

現代の情報と古典の世界を集約した本格的独和辞典です！

- ▶ 総見出語数約95,500語を収録。この辞典ではじめて収録した新語は14,300語に及ぶ。
- ▶ 工業技術・経済関係の術語など現代生活に必要な語を多数収録し、従来の独和辞典の欠点をあらためた。
- ▶ 古典作品を読むのに必要な語も十分に収録。
- ▶ 現代ドイツ語と古いドイツ語との区別、さらに語の使用領域の区別を明確にしめた。

▶ 訳語(語義)を使用頻度の順に配列したことは、訳語の的確さとともに、他に類をみない特色である。

付録 ● 文法(文字・発音・品詞・冠詞・名詞・代名詞・形容詞・数詞・動詞などそれぞれ説明と変化表) ● 分綴法 ● 句読法 ● 修飾法 ● 韻律法 ● 強変化および不規則変化動詞表 ● 地図(ヨーロッパ中央部カラー地図およびドイツ行政地図・方言地図・歴史地図)

東京都文京区本郷 三修社 TEL 2-26-11 千113 03(813)4031(代)

- ' 60 町人貴族 モリエール
- ' 61 イタリアの麦わら帽子 ラビッシュ
- ' 62 ジョルジュダンダン モリエール
- ' 63 気で病む男 モリエール
- ' 64 いやいやながら医者にされ
モリエール
- ' 65 スカパンの悪だくみ モリエール
- ' 66 守銭奴 モリエール
- ' 67 女学者 モリエール
- ' 68 泥棒たちの舞踏会 ジャン・アヌイ
- ' 69 ムッシュー・ド・プールソニャック
モリエール
- ' 70 将軍たちのおやつ ポリスヴィアン
- ' 71 フィガロの結婚 ボーマルシェ
- ' 72 イタリアの麦わら帽子
ラビッシュ
- ' 73 野性の女 シャン・アヌイ
- ' 74 恋は医者 モリエール
- ' 75 エスキュリアル
ド・ゲルドロード
- ' 76 出口なし サルトル
- ' 77 墓場なき死者 サルトル
- ' 78 戦場のピクニック アラパール

我劇団は「フランス語劇」と称して、語劇祭の中で活動し、そのメンバーは仏文科の学生のみによって構成されている。しかし、以前は仏語科、フランス文化研究会の学生が多く参加していた。否、多く参加したというよりも、中心になって活動していた。現在では、仏語、フラ研、仏文の三者が分かれ、仏語科は「仏語会」と称して、活動を続け、毎年独自に語劇を行なっている。フラ研は、演劇活動は行なっていないが、他の手段によるフランス文化の研究に余念がない。我「フランス語劇」は、前述のように仏文科学生、それも特に三年生を中心に構成され、毎年語劇祭に参加している。またその他の活動として、五月初旬に仏文科の新入生歓迎の意を込めて、新二年生によって上演される語劇の指導も行なっている。

ところで、我々は、フランスの作家のいろいろな作品に接することにより、フランス演劇についてのより深い理解を得ることができようであろう。しかし、我フランス語劇の歴史を振り返ってみると、モリエールの作品が半分近くをしめており、また今回の「泥棒たちの舞踏会」も六四年度に続いて二回目の公演である。これには、外国語の作品を日本人である我々が上演するにあたり生ずる問題、即ち外国語のテキストのみによる劇そのものや、登場人物の性格や微妙な気持ちの陰影の把握、また劇自体の時間的長さ、

それに携わる学生の数などが大きく関係していると思われる。

今回、この作品をとりあげることに決まったのち、ベジノ神父の御配慮によって、この「泥棒たちの舞踏会」が仏文科三年のフランス語のテキストに選ばれた。このことは劇の上演が授業内容のよりよい理解、また授業による解釈がそのまま上演に直結するという点で、我々にとって一石二鳥である。

今回の上演により、皆様がフランス演劇を一層深く理解されることを望み、併せて今後の「フランス語劇」並びに「語劇祭」に対する御支援、御鞭撻、また我々の公演上の不行き届き、演出、役者、スタッフの力不足、勘違いなどにつき、皆様の御叱正をお願いする次第である。

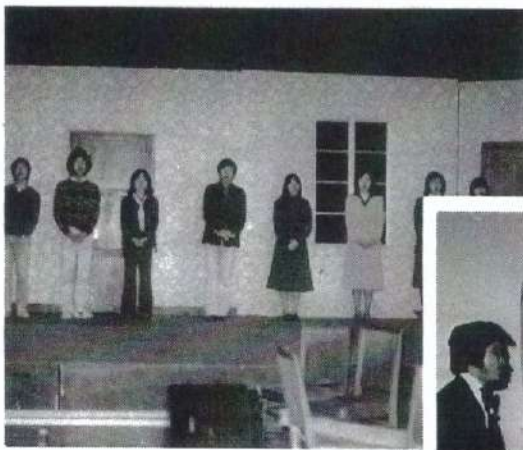
最後に、我々の劇の上演のために、夏休み中の仏文科合宿に於いて、特別にプログラムを組んで下さったベジノ神父、ド・フロモン神父、我々の拙ない発音・抑揚を、親切且つ丁寧に矯正して下さいましたモコール神父、またお仕事でお忙しい中、原稿を書いて下さったり、座談会に出席して下さい下さった先輩方に、この場を借りて、感謝の意を表すものである。

(蛭川 剛二)



一九六〇年に第一回公演をし、その後、何度か中断しながらも、不死鳥の如く蘇り、現在では一つのサークルとなり、名称も「スペイン演劇研究会」となっています。

| | | |
|---------|------------------|----------|
| '60年 | 小犬 | アルニチエス |
| '61年 | せんべい売り | ? |
| '62年 | 善意の人 | アルニチエス |
| '63年 | 作り上げた利害 | ベナペンテ |
| '64年 | 姿なき愛 | フェンテ |
| '65年 | エル・キントピノ | トノ |
| '66年 | あなたも殺人者になれる | パソ |
| '67年 | 六頭立ての馬車 | イリアルテ |
| '68年 | 前夜 | イリアルテ |
| '70年 | 洪水 | マウラ |
| '72年 | 砂に書いた言葉 | バジェホ |
| '73年 | 暗闇の中の愛 | キンテロ |
| '75年 | 雲が形を変える時 | クリアード |
| '76年(春) | ママの私生活 | イリアルテ |
| '76年(秋) | 背徳の城 | トーレ |
| '77年(春) | ア・メディア・ルス・ロス・トレス | ミウラ |
| '77年(秋) | 立ち枯 | カソーナ |
| '78年(春) | 家の中の空 | ? |
| '78年(秋) | 三人の妻 | カソーナ |
| '79年(春) | エン・サ・ピエンサス | ビジャウルティア |



公演前の発声練習
(作りかけの舞台装置の前で)



いよいよ本番!
(78年『三人の妻』より)

そして、感激のカーテンコール……



スペイン居酒屋 料理店
日本の中のスペイン

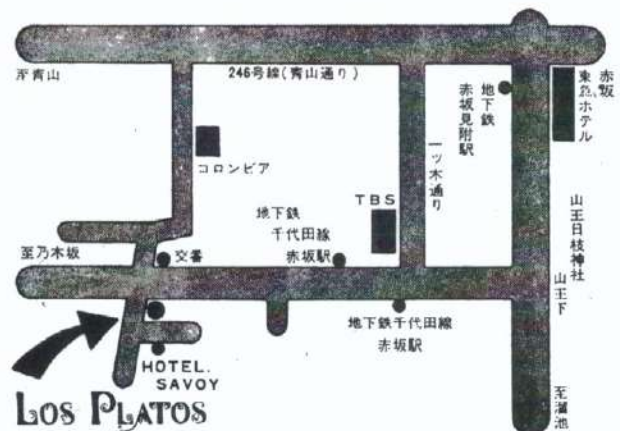
LOS PLATOS

平日 昼2時～夜11時

日祝日 昼2時～夜10時

港区赤坂6-13-11 テラス赤坂1F

TEL 583-4262 年中無休



編集後記

語劇祭は今回で第20回を迎え、このパンフレットも、これでいよいよ20冊めというわけです。『10年ひと昔』と言いますが、ふた昔前に、第一回めのパンフレットが作られたのですね。その頃は、まだ一歳になったばかりの私が、今では、こうして編集の仕事をしているなんて...。時の流れというものをひしひしと感じます。

最後にお忙しい中を原稿を書いて下さった先生、OBの方々、御協力どうもありがとうございました。また、編集にあたって、OBの曾根慎一さんには並々ならぬ御協力をさせていただき、深く感謝しております。この場を借りて、心から御礼申し上げます。

一九七九年夏

(K. Tizuka)

第二十回語劇祭実行委員会

委員長

永田 靖(露)

副委員長

飯塚久美子(西)

パンフレット編集

小高慶子(独)

パンフレット編集

蛭川剛二(仏)

們田 豊(露)

猪塚 元(露)

岩川佳代(西)

宮地卓哉(西)

浜田尚子(独)

倉林正文(独)

関川 誠(独)

曾根伸一

三鈴印刷(株)

補佐

構成レイアウト

印刷

合羽橋

とせろ

飯田屋

国際劇場脇

電話 (843) 0881 代表

本館 通

正統のロシアの味を！ さわやかなウオトカの酔を！！
北国の大地の生んだ独特の風味をどうぞ……………。

御会合に……
パーティーに……
御家族でのお食事に
たのしい、ひとときを
お過ごし下さい
御予約承わっております



ロシアレストラン

チヤイカ

新宿歌舞伎町・区役所裏・福田ビル3F TEL 209-7878 営業時間 12:00~11:30

美術写真集他書籍・卒業アルバム・各種パンフレット

—近刊予告—

まぼろしの ハルビン

白樺とニレの並木、キタイスカ
ヤとロシア寺院、スングアリーと洗
礼祭、今はまぼろしとなった北満
の詩都を夢の様に描いた写真集

好評の写真集

■ 明治建築 ￥15,000

文化庁文化財保護部建造物課指導
日本建築学会明治建築小委員会監修

■ 満洲の回想 ￥5,000

■ ハルビンの回想 ￥6,000

■ 北京の回想 ￥5,000

● その他 絵と文 思い出の満洲 ￥2,000

恵雅堂出版株式会社

〒162 新宿区喜久井町34 TEL 203-4754(代)

内容見本送呈



s. some